

商品名 レバミピド錠100mg「MED」 添付文書情報

一般名	レバミピド100mg錠	薬価	10.40
規格	100mg 1錠	区分	
製造メーカー	メディサ新薬	販売メーカー	メディサ新薬 旭化成ファーマ
薬効	2. 個々の器官系用医薬品 23. 消化器官用薬 232. 消化性潰瘍用剤 2329. その他の消化性潰瘍用剤		

レバミピド錠100mg「MED」の用法・用量

〈胃潰瘍〉

通常、成人には1回1錠（レバミピドとして100mg）を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。

〈次記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善

急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期〉

通常、成人には1回1錠（レバミピドとして100mg）を1日3回経口投与する。

レバミピド錠100mg「MED」の効能・効果

[1] 胃潰瘍。

[2] 次記疾患の胃粘膜病変（胃粘膜びらん、胃粘膜出血、胃粘膜発赤、胃粘膜浮腫）の改善：急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期。

レバミピド錠100mg「MED」の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）。
- 2) 白血球減少、血小板減少（いずれも頻度不明）。
- 3) 肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）：AST上昇、ALT上昇、 γ -GTP上昇、Al-P上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがある。

2. その他の副作用：

[1] 過敏症：（0.1～0.5%未満）発疹、（0.1%未満）そう痒感、薬疹様湿疹等の過敏症状、（頻度不明）蕁麻疹。

[2] 精神神経系：（頻度不明）しびれ、めまい、眠気。

[3] 消化器：（0.1～0.5%未満）便秘、腹部膨満感、下痢、味覚異常、（0.1%未満）嘔気、胸やけ、腹痛、げっぷ、（頻度不明）口渇、嘔吐。

[4] 肝臓：（0.1%未満）AST上昇、ALT上昇、（頻度不明） γ -GTP上昇、ALP上昇〔トランスアミナーゼが著しく上昇した場合や発熱、発疹等が同時にあらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと〕。

[5] 血液：（頻度不明）血小板減少、白血球減少、顆粒球減少。

[6] その他：（0.1%未満）浮腫、咽頭部異物感、（頻度不明）乳腺腫脹、乳房痛、女性化乳房、乳汁分泌誘発、動悸、発熱、顔面潮紅、舌のしびれ、咳、息苦しい、脱毛、月経異常、BUN上昇。

レバミピド錠100mg「MED」の使用上の注意

【禁忌】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること（動物実験（ラット）で胎仔への移行が報告されている）。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること（動物実験（ラット）で乳汁中への移行が報告されている）。

【小児等】

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

【高齢者】

消化器症状等の副作用に注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【適用上の注意】

1. 薬剤交付時の注意：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある）。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.